

各施設長ごあいさつ

機関誌「愛道」百号によせて

足羽東保育園

園長 矢納ともえ



「愛道」創刊時に足羽東保育園に入園した子どもたち

も三十歳になっています。現在、当園には百名近い園児がいますが、その保護者の四割程が卒園された方々です。卒園児が保護者になり、その子どもがまた保育園に入り、保育園を拠点に家族や地域がつくられていくことは大きな喜びです。

百号までの月日の間に、少子高齢化など、子どもや親を取り巻く環境は大きく変わりましたが、当園では『自然保育、ふれあい保育、縦割り保育、食育、運動あそび』など、保育の柱を変えずに取り組んできました。今一度、これまでの「愛道」を開いてみると、そこには生き生きとした子どもの姿があり、当園の保育方針は、子どもの心が豊かに育つものであると改めて確信しました。

「愛道」は愛の道筋。百号までのいろいろな方のつながりを大切に、今後も人のぬくもりをお伝えしていきます。

足羽学園・足羽更生園

園長 渡辺隆



私が足羽福祉会にお世話になり、早いもので四年目を迎えました。張りつめた状態で仕事をしていることが多い中で「愛道」を読むときは、ホッとします。毎号、仲間の各施設の工夫された紹介記事や最新のニュース情報を楽しく読んでいます。

百号発行にあたり、三十年にわたる歴代の編集者や、誌面の充実のために心血を注いで、ご努力された方々に深く敬意を表します。

「愛道」は、足羽福祉会の理念にある、地域に開かれた、地域に信頼される施設の在り方、生きざまを、発信しています。

継続は力と言います。百五十号、二百号を目指して、私も微力ながらお手伝いできればと思っています。これからも、地域の人々と足羽福祉会の共生のかけ橋として、ますますその誌面が充実、発展していくことを祈念します。

足羽ワークセンター

所長 大館嘉昭



足羽ワークセンターが昭和六十二年に開設して二十

二年が経ちました。長い「愛道」の歴史の中に、ワークセンターの歴史も刻まれているのを実感し感慨深いものがあります。

刻々と変化する「愛道」の歴史とともに、ワークセンターの歴史も変化してきました。

措置の時代から障害者自立支援法になり、四十名を超える方々が就職され、利用者の方全員がグループホーム・ケアホームにて生活されています。歴史の歩みとともに、利用者の方々、ご家族の方々の環境も変化していることでしょうか。しかし、環境が変わっても、私たちは利用者の方が安心して生活していただけるように、日々努力を重ね、支援していかうと考えております。

「共に生き、共に集う、光を求めて」を継承して。

愛全園

園長 滝波正興



「愛道」創刊百号の節目を迎え、改めて足羽福祉会の四

十三年の歴史と、現在に至るまでの諸先輩方のご苦勞・ご努力を感じております。私自身、身の引き締まる想いです。

人と人とのふれあいの中の温かさ、人の想いの温かさは、私たちが福祉に携わる者として何よりも大切にしていきたいことです。「愛道」を読むたびに、その想いを新たにすることができます。本当に感謝しております。

最後になりましたが、今まで「愛道」の発行に携わった委員の方、利用者の方、地域やボランティアの方々、深く御礼申し上げますと共に、今後とも百五十号・二百号の発行に向けてご協力頂きますようお願い申し上げます。

足羽利生苑

苑長 岩本昌雄



足羽学園・学園便り」の創刊から三十四年の時を経て、

「愛道」百号が発刊されました。この「愛道」を通して、支援や集いの輪の広がりに大きな成果を出しています。その一方で、編集担当職員には言い尽くせないご苦勞もあつたことでしょう。

これからの「愛道」は『希望に向かつて』の新たな一歩でもあります。読者（関係者の皆さん）と誌面を通してふれあい、足羽福祉会の成長発展と共にある機関誌「愛道」として、多くのファンに愛されることを祈願します。私も足羽福祉会の一人として責任を果たしていきたいと思っております。

